

1 「聴能」とは？

「聴力」…「音を聞き取る力」

「聴能」…「補聴器や人工内耳が強調した音声情報の手がかりから、活用できるいろいろな情報を使って、その意味を類推する能力」＝「欠けた音を脳で補う働き」

(例)「いあん」と聞こえた。→「3文字」「こたつ」「食べ物の話」

その他、季節やその場の状況などから、

「聴能」の力を働かせて「みかん」と判断。

※ もともとの「聴力」を改善するのは難しいが、「聴能」は学習により発達する。

「聴能」は、必ずしも聴力レベルに比例せず、育ち方により大きく異なる。

<聴能教育で育てたい力>

「補聴機器への順応、集中して聞く力、音声と意味を関連付ける力、音と経験から想像する力、自分から求めて聞こうとする態度」等々

2 補聴器・人工内耳について

聴覚障害の1つの捉え方 → 器とその間口で説明できる。

音情報がたまる器の大きさは同じ場合でも、音情報が入る間口が狭いために情報がたまるのに時間が掛かる状態。（視覚情報は十分に入る）

そこで「音をなるべく確実に届けるための機器」 → 補聴器・人工内耳

「補聴器」…「音を大きくすることで聞こえるようにするもの」

「人工内耳」…「(補聴器で効果が足りない場合)音やきこえに関わる神経を直接電氣的に刺激して、音に近い感覚を生じさせるもの」(適応基準あり、手術が必要)

※ 補聴機器の発達により、器の間口が広がり、音情報が格段に入りやすくなっている。

※ 必要に応じて視覚情報での支援も大切にしている。

3 普段、聴覚障害児と関わる際に気を付けたいこと

補聴機器を装用しても、健聴者と同じように聞き取れるわけではない。

また、健聴者が思う以上に「言葉の聞き分け」は難しいと想像される。

【補聴器・人工内耳の苦手なこと】

「騒音下での聞き取り、早口、距離が遠い、複数で同時に話す」等々

→

なるべく静かな環境、少しゆっくりめに、近くで、(複数の場合)順番に話す